

広報広聴委員会行政視察報告書

1 視察期間

平成30年7月17日から7月18日まで 2日間

2 視察都市

- (1) 東京都多摩市
- (2) 神奈川県藤沢市

3 参加者

芥川栄人委員長、根津康広副委員長、江塚 学委員、鈴木正人委員、永田隆幸委員、
芦川和美議員、川崎和子委員
随員 寺田聡志副主任、鈴木淳一副主任

4 視察事項

- (1) 市の概況について（2市）
- (2) 議会だよりの編集及び発行について
- (3) 議会報告会の実施及び運営について

5 考察

次のとおり

I 多摩市 人口：148,654人・面積：21.01km²（平成30年4月1日現在）

1 議会だよりの編集及び発行について

(1) 概要

多摩市議会は、多摩市議会基本条例に基づき、多摩市議会の広報活動の充実を図るため、平成27年5月、次期の議会運営委員会で「議会だより」を一新し、従来のタブロイド8頁から、A4判冊子型16頁への変更することを申し送り事項とした。その後、新たな議会運営委員会において、2年の準備期間を設け平成29年度から新しい「議会だより」に移行することを確認し、新しい「議会だより」に移行するため議会運営委員会内に、「議会だよりプロジェクト・チーム」を立ち上げた。議会だよりプロジェクト・チームは平成27年8月から平成28年3月まで、議会だよりの検討を行い、新しい「議会だより」への変更の意義を議会運営委員会に報告した。

その後、「議会だよりプロジェクト・チーム」は検討を重ね、平成28年6月「議会だより編集会議」を始めた。この「議会だより編集会議」は平成30年1月25日までに、36回の会議を行い、平成29年月5日号から新「議会だより」に移行するため、具体的な段取りについて協議してきた。

計画どおり平成29年5月5日号から新たにA4判の議会だよりを発行した。その後、1年間試行錯誤を繰り返し、新聞折り込みによる配布から民間に委託し全戸配布するなど改革を進めた。

また、議会だよりに使用する写真を公募するなど、市民との関わりを強化する取り組みも始まっている。

(2) 考察

多摩市議会では、議会と市民をつなぐ「議会だより」として、表紙の写真を公募しており、議会がより身近に感じる仕組みづくりをしていると感じた。毎回特集を組んでいる「市民と議会」では、市民との話が掲載され、議会が市民の意見を聞く姿勢が表れていると感じた。本市議会が取り組んでいる特集についての課題や共通点もあった。今後マンネリ化しないための工夫も求められる。

また紙面編集を編集委員会が多く携わっていることに関心を持った。今後本市でも議員の役割として出来ることを精査・検討する必要がある。

印象に残ったのが「読み物としてのしんでもらう紙面づくり」「自分たちが読みたくなるお便り」を心がけていることで、手に取りやすく・みやすく・読みやすい「羅針盤」の紙面づくりが大切であり参考になった。

II 藤沢市 人口：429,317人・面積：69.57km²（平成30年4月1日現在）

1 議会報告会の実施及び運営について

(1) 概要

藤沢市議会は、平成25年施行の藤沢市議会基本条例に基づき、広報広聴機能の充実を図るために広報広聴委員会を設置した。また、同条例により、市民に対し議会活動に関する情報を積極的に公表し、議会に対する市民の意思の把握及び意見を交換する場として議会報告会を開催している。平成26年度まで「議会報告会・意見交換会」を実施してきたが、参加者の年齢層の偏りや固定化、参加人数の減少、参加者の満足度が低いなどの課題があった。そこで新たな取り組みとして、専門家のアドバイスを受け、広報広聴委員会で協議した結果、これまでの議会報告会・意見交換会をさらに発展させることとした。実際に28年度に実施した取り組み内容は下記の通りである。

- ① 名称やチラシを工夫して、親しみやすいものにする。
- ② ワールドカフェ形式を採用し、和やかな雰囲気意見交換を行う。
- ③ 18歳選挙権を見据えて「投票率の向上」をテーマにする。

平成28年5月に、議員と話そう カフェトークふじさわ～みんなが主役 投票率アップ大作戦！～として「第1回カフェトークふじさわ」が開催された。高校生以上の若い方も対象とすることや専門のファシリテーターを招き、各テーブルホスト（進行役）を大学生に担ってもらうなどこれまでの議会報告会を一新し、会場も若者が集まる場所に設定した。その後、平成28年11月に第2回目を、平成30年1月に第3回目を開催した。なお、第3回目はカフェトークのテーマを「藤沢の知名度アップ」に変更した。

参加者からのアンケート結果から、若い世代や女性の参加者も増え、参加者の満足度も大幅に向上したことが分かった。

ワールドカフェ実施後は、テーマとした「投票率の向上について」「藤沢の知名度向上について」の意見を集約して市長や選挙管理委員会委員長、教育長へ提言書を提出した。

今後の課題として、より興味を持ってもらうテーマの設定、テーマに沿った会場の設定、

幅広い年齢層への周知するための方法などがある。

(2) 考察

マンネリ化していた「議会報告会」のスタイルを変えた藤沢市の「ワールドカフェ」は、今後の議会報告会のあり方を探る上で大変参考になった。テーブルごとに議論し、多くの人と話ができることは、議員と身近になり議会も見えてくる。市民の意見を聞くという広聴の役割も生かして、政策立案につなげていくことにもなり、参加者の満足度を得られると感じた。特に広く意見を聴く「カフェトーク」を参考に本市でも若者や女性も気軽に参加できるよう検討する必要があると感じる。

また議会報告会を活性化するためには、テーマの選定や広報活動、会話の弾む仕組みなど創意工夫の必要性を感じた。

ワールドカフェ終了後に内容を市長等に提言し、PDCAにより検証し実施することがベストだと勉強になった。今後、本市議会でも出来ることから取り組み、市民との対話を大切にしたい。議会報告会が出来よう参考にしたい。

最後に、本市でも参加者が特定の世代に偏りがちなので、若者向けの報告会も実施していくことも検討していきたい。